

政策整理番号	34	施策番号	2	評価シート(B) (施策評価: 施策を構成する事業の評価)			
対象年度	H18	作成部課室	土木部 道路課	関係部課室	土木部 都市計画課		

政策名	国内の交流を進めるための交通基盤の整備				政策番号	4 - 10 - 2	
-----	---------------------	--	--	--	------	------------	--

施策番号	2	施策名	国道、県道、市町村道の整備				
------	---	-----	---------------	--	--	--	--

施策概要	県内の各地域相互や、各地域と高速道路ネットワークを有機的に結び、県内各地域の連携の強化等を図るため、国道、県道、市町村道を整備します。						
------	---------------------------------------------------------------------	--	--	--	--	--	--

政策評価指標 / 達成度	道路の改良率	B	緊急輸送道路橋梁整備率	A

達成度: A(目標値を達成している), B(目標値を達成していないが、設定時の値から見て指標が目指す方向に推移している)
 C(目標値を達成しておらず、設定時の値から見て指標が目指す方向と逆方法に推移している)....(現状値が把握できない等のため判定不能)

施策を構成する事業の分析

活動(事業) / 活動(事業)によりもたらされた結果						活動(事業)によりもたらされた成果						
事業番号	事業名 [担当課]	事業の対象 (誰・何を対象として)	事業の手段 (内容) (何をしたのか)	業績指標名 (単位) (事業の活動量、事業の手段に対応)	H16	H17	H18	事業の目的 (意図) (対象をどういう状態にしたのか)	成果指標名 (単位) (事業の成果、事業の目的に対応)	H16	H17	H18
					業績指標の値					成果指標の値		
					事業費 (決算(見込)額, 千円)					成果指標の値		
					単位当たり事業費(千円)					成果指標の値		
1	一般国道398号石巻バイパス [道路課]	利用者	石巻バイパス事業を実施した。	供用延長(km)	0 1,630,000	0 1,180,000	0 1,020,000	道路網を整備したことにより、各地域の連携強化を図る。	道路改良率(%)	91.0	91.2	
2	一般国道346号鹿島台バイパス [道路課]	利用者	鹿島台バイパス事業を実施した。	供用延長(km)	0 550,000	0 550,000	0 610,000					
3	一般国道113号館矢間バイパス [道路課]	利用者	館矢間バイパス事業を実施した。	供用延長(km)	0 782,000	0 250,000	0 473,000					
4	橋梁耐震補強 [道路課]	利用者	橋の耐震化を実施した。	橋梁数		26 1,079,240 41509.2	37 1,006,470 27201.9	震災時においても重要な拠点へのルート確保	緊急輸送道路橋梁整備率(%)		32.9	46.8
5	[]											
事業費計(千円)					2,962,000	3,059,240	3,109,470					

B - 1, 2, 3 施策を構成する事業群の評価

B - 1 施策実現にむけた県の関与の適切性と事業群設定の妥当性	B - 2 事業群の有効性	B - 3 事業群の効率性
適切	概ね有効	概ね効率的
<p>【評価の根拠】 施策を構成する事業の分析「B-1 事業への県の関与の適切性と事業設定の妥当性」を総括して記載</p> <p>・各事業は道路ネットワーク整備のために必要な事業であり、国・県・市町村との役割分担も適切であり、「適切」と判断した。</p>	<p>【評価の根拠】 施策を構成する事業の分析「B-2 事業の有効性」を総括して記載</p> <p>・事業実施に年数を費やすことから、評価指標には大きな向上は見られないが、着実に進行しているため「概ね有効」と判断した。</p>	<p>【評価の根拠】 施策を構成する事業の分析「B-3 事業の効率性」を総括して記載</p> <p>・道路事業は複数年事業であるため、事業の効率性を単年度ごとに判断するのは難しいが、効率的に実施されているため「概ね効率的」と判断した。</p>

B 施策評価(総括)

概ね適切
<p>【評価の根拠】 B - 1, 2, 3 を総括し施策を総合的に評価</p> <p>・県の関与は適切であるが、事業の性格上、事業群の有効性・効率性は単年度での判断は下しにくい面もあるが、着実に事業進捗しているため、「概ね適切」と判断した。</p>
<p>【施策の次年度(平成20年度)の方向性】 この施策における今後の課題等を記載</p> <p>・緊縮財政の下では、効率的な執行を求められており、事業の効果的な展開及び絶えずコスト削減を図る必要がある。</p>

施策を構成する事業の分析

活動(事業)の分析		
B-1 施策実現にむけた県の関与の適切性と事業設定の妥当性	B-2 事業の有効性	B-3 事業の効率性
<p>【国・市町村、民間団体との役割分担は適切か】 【施策目的及び社会経済情勢を踏まえた事業か】 【事業間で重複や矛盾がないか】</p>	<p>【成果指標の推移から見て、事業の成果があったか】 【施策目的の実現に貢献したか】</p>	<p>【事業は効率的に執行されたか(単位当たり事業費の推移その他から)】</p>
<p>・道路整備は、国・県・市町村がそれぞれの役割を分担して行っており、民間団体は道路愛護団体やアダプト団体による地域住民活動を行っている。 ・道路は社会基盤であり、国又は地方公共団体が整備すべきものであり、県では、土木行政推進計画に則り、計画的な執行を行っている。</p>	<p>・道路整備には、相応の期間と事業費を要するため単年度では業績や成果が上がらない年度があるが、事業費の推移からわかるように、事業は着実に進行している。</p>	<p>・事業費は横ばい傾向であるが、道路整備は複数年にわたって行っており、土木行政推進計画に則り、計画的に執行している。</p>
<p>・近い将来に宮城県沖地震の発生が予想されているため、県庁・市町村役場・空港・港湾・医療機関等の各防災拠点を相互に連絡する道路ネットワークであり、国・県・市町村がそれぞれの役割を分担して行っている。</p>	<p>・宮城県沖地震に備えて、橋梁の耐震補強事業は着実に進行している。</p>	<p>・事業費は横ばい傾向であるが、緊急輸送道路ネットワーク計画に則り、計画的に執行している。</p>

施策を構成する事業の方向性

活動(事業)の次年度(平成20年度)の方向性とその説明	
方向性	方向性に関する説明
「宮城の将来ビジョン」における位置づけ	
取組番号	取組名
維持	・早期供用開始を目指し事業を推進し、緊縮財政の下で、着実な事業展開を図って行く。
取組12	宮城の飛躍を支える産業基盤の整備
拡充	・災害時においても重要な施設へのルート確保のため、第2次緊急輸送道路を平成22年度までに緊縮財政の下で、着実な事業展開を図って行く。
取組31	宮城県沖地震に備えた施設整備や情報ネットワークの充実

政策評価指標分析カード(整理番号1)

政策整理番号

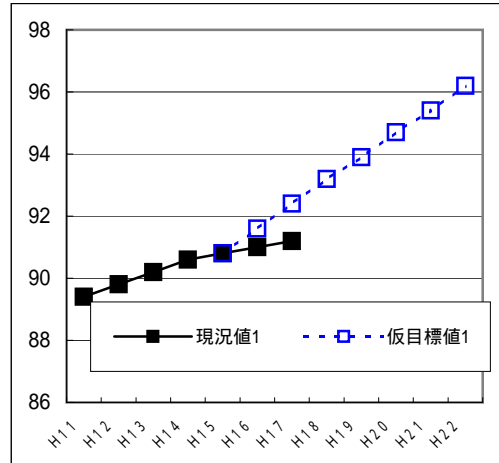
34

施策番号

2

対象年度	H18	作成部課室	土木部 道路課	関係部課室	土木部 都市計画課
政策名	国内の交流を進めるための交通基盤の整備			政策番号	4 - 10 - 2
施策番号	2	施策名	国道、県道、市町村道の整備		

政策評価指標		単位						
道路の改良率		%						
目標値	H17	92.4	H22	96.2				
評価年	初期値	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18
測定年	H14	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17
現況値	90.6	89.4	89.8	90.2	90.6	90.8	91.0	91.2
仮目標値					90.6	90.8	91.6	92.4
達成度					...	A	B	B



達成度:A(目標値を達成している), B(目標値を達成していないが、設定時の値から見て指標が目指す方向に推移している)
 C(目標値を達成しておらず、設定時の値からみて指標が目指す方向と逆方法に推移している), ... (現状値が把握できない等のため判定不能)

政策評価指標の概要

改良延長とは、道路構造令の規格に則り改良された延長である。これを実延長で除したものを改良率という。

政策評価指標の選定理由

・施策「国道、県道、市町村道の整備」を「一般道路の整備」ととらえれば、現在の指標である「高速道路IC40分間交通圏カバー率」は、国県道等の整備よりも、高速道路の整備率に大きく依存するものであるため、施策に対して直接的な指標であるとはいえない面がある。このため、より直接的に本施策の推進結果を表すものとして、「道路の改良率」を選定するものである。

達成状況の背景(未達成の場合はその理由等)・今後の見通し

・道路事業費は減少傾向にあることから、目標値達成は難しい状況である。
 ・土木行政推進計画に則り、計画的な執行を行う。

政策評価指標の妥当性【施策の有効性を評価する上で適切な指標か】

・指標値は、近年の事業費削減のため達成は困難が予想されるが、指標としては適切である。

政策評価指標分析カード(整理番号2)

政策整理番号

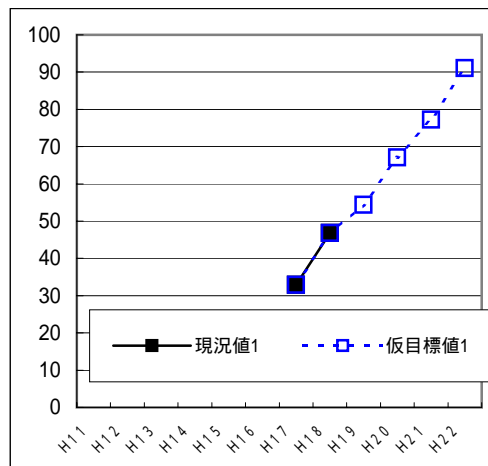
34

施策番号

2

対象年度	H18	作成部課室	土木部 道路課	関係部課室	土木部 都市計画課
政策名	国内の交流を進めるための交通基盤の整備			政策番号	4 - 10 - 2
施策番号	2	施策名	国道、県道、市町村道の整備		

政策評価指標		単位						
緊急輸送道路橋梁整備率		%						
目標値	H17	-	H22					
			91.1					
評価年	初期値	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18
測定年	H17						H17	H18
現況値	32.9						32.9	46.8
仮目標値							32.9	46.8
達成度							...	A



達成度:A(目標値を達成している), B(目標値を達成していないが、設定時の値から見て指標が目指す方向に推移している)
 C(目標値を達成しておらず、設定時の値からみて指標が目指す方向と逆方法に推移している), ... (現状値が把握できない等のため判定不能)

政策評価指標の概要

橋梁における耐震化事業の完了率

政策評価指標の選定理由

・本事業や災害防除事業を実施することにより、震災時においても重要な拠点へのルートを確保することが出来、ひいては安全安心な、日常の交流を促進させるものである。

達成状況の背景(未達成の場合はその理由等)・今後の見通し

・現況値は目標値を達成している。
 ・道路事業費が減少傾向であるが、宮城県沖地震に備えて重点的に整備を進める。

政策評価指標の妥当性【施策の有効性を評価する上で適切な指標か】

・国内の交流機能を図る指標としては、県内の緊急輸送道路橋梁整備を指標とすることは適切である。